

平成 29 年産水稲の 8 月 15 日現在における作柄概況

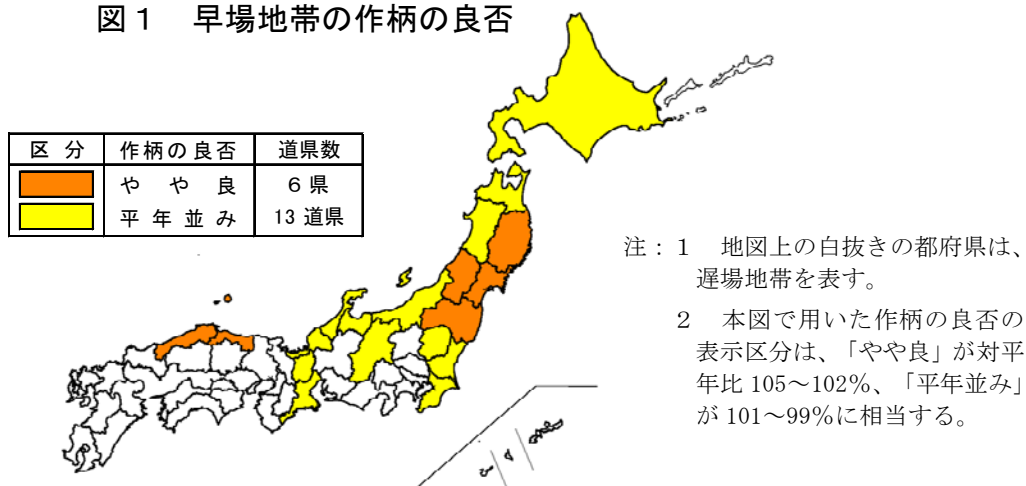
8 月 15 日現在の早場地帯の作柄は「平年並み」又は「やや良」、
遅場地帯の生育は「平年並み」又は「やや良」の見込み

【調査結果】

1 東日本を中心とした早場地帯（19 道県）の作柄は、「平年並み」又は「やや良」と見込まれる。

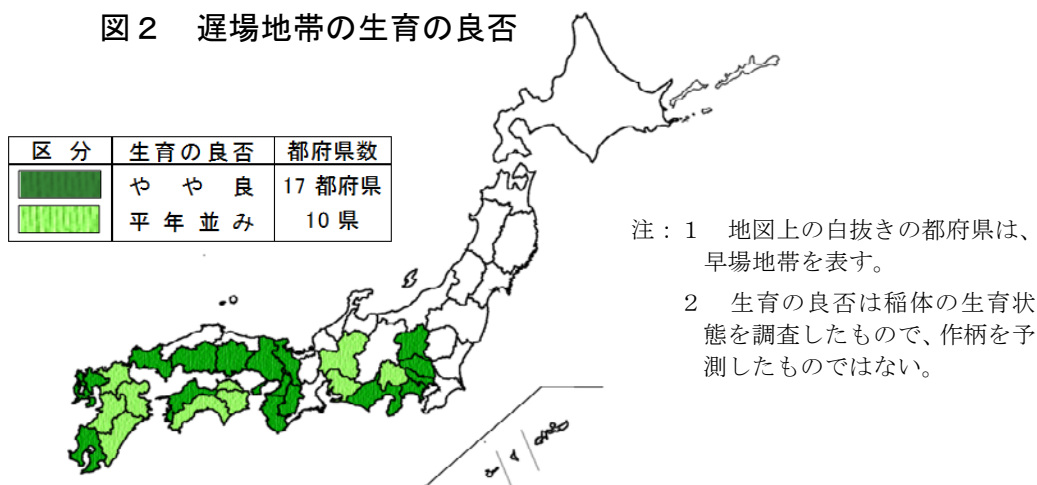
これは、一部地域で 7 月下旬から 8 月中旬の日照不足等の影響が見込まれるものの、田植期以降おおむね天候に恵まれたことにより、全もみ数が一部を除き平年以上に確保されると見込まれるためである。

図 1 早場地帯の作柄の良否



2 西日本を中心とした遅場地帯（沖縄県（第二期稲）を除く 27 都府県）の生育は、田植期以降おおむね天候に恵まれていることから、「平年並み」又は「やや良」で推移している。

図 2 遅場地帯の生育の良否



○ 作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

◎ 用語の解説及び特記事項

- ・ 早場地帯とは、8月15日現在の出穂済面積割合が平年ベースでおおむね8割以上を占める19道県である（平成28年産収穫量割合：69.3%）。
- ・ 遅場地帯とは、早場地帯の道県以外の都府県である（同：29.4%）。
- ・ 遅場地帯の水稻のうち、早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県における早期栽培並びに沖縄県の第一期稲は、西南暖地における早期栽培等として別に集計している（同：1.3%）。

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

水陸稲（子実用）の年次別推移（全国）

年産	水陸稲計		水稲					
	作付面積 (子実用)	収穫量 (子実用)	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	参 考		
						主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	t	ha	kg	t	ha	t	
平成19年産	1,673,000	8,714,000	1,669,000	522	8,705,000	…	…	99
20	1,627,000	8,823,000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1,624,000	8,474,000	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	98
22	1,628,000	8,483,000	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,576,000	8,402,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,581,000	8,523,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,599,000	8,607,000	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,575,000	8,439,000	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,506,000	7,989,000	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,479,000	8,044,000	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である（以下同じ。）。

2 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。

4 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

5 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

【統計表】

1 平成29年産水稻の都道府県別田植及び出穂の状況（8月15日現在）

都道府県	田植期					出穂期					出穂済み面積割合	
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較		当年値	対平年差
				対平年差	対前年差				対平年差	対前年差		
月 日	月 日	月 日	日	日	日	月 日	月 日	月 日	日	日	%	ポイント
北海道	5. 18	5. 24	5. 30	2日早	並み	7. 25	7. 31	8. 6	並み	2日早	100	0
青森	5. 15	5. 20	5. 28	2日早	1日早	8. 2	8. 6	8. 12	1日遅	1日遅	99	△ 1
岩手	5. 10	5. 17	5. 25	1日早	並み	8. 1	8. 6	8. 12	並み	並み	100	0
宮城	5. 4	5. 11	5. 21	1日早	並み	7. 29	8. 1	8. 11	2日早	1日早	98	△ 1
秋田	5. 15	5. 22	5. 30	1日早	1日遅	8. 3	8. 6	8. 13	2日遅	2日遅	98	△ 2
山形	5. 13	5. 18	5. 26	1日早	並み	8. 3	8. 7	8. 14	1日遅	1日遅	98	△ 1
福島	5. 10	5. 17	5. 27	1日早	1日遅	8. 2	8. 9	...	1日早	並み	94	0
茨城	4. 27	5. 5	5. 25	2日早	1日早	7. 15	7. 27	8. 10	4日早	3日早	98	1
栃木	5. 1	5. 6	6. 14	1日早	並み	7. 22	7. 28	...	4日早	3日早	91	2
群馬	5. 22	6. 14	6. 27	並み	1日遅	8. 8	41	1
埼玉	4. 28	5. 22	6. 27	並み	1日遅	7. 21	8. 8	...	3日早	2日早	66	4
千葉	4. 18	4. 29	5. 13	1日遅	2日遅	7. 11	7. 22	8. 2	2日早	1日早	100	0
東京都	5. 28	6. 11	6. 29	2日早	2日早	8. 5	8. 13	...	2日早	2日早	60	5
神奈川県	5. 19	6. 2	6. 12	1日遅	1日遅	7. 30	8. 11	...	1日早	2日早	79	1
新潟	5. 4	5. 10	5. 20	1日早	1日遅	7. 27	8. 6	8. 14	並み	2日遅	98	△ 1
富山	5. 2	5. 12	5. 18	並み	並み	7. 20	8. 2	8. 12	並み	2日遅	100	0
石川	4. 30	5. 5	5. 23	並み	1日遅	7. 17	7. 29	8. 4	1日早	2日遅	100	0
福井	4. 30	5. 14	5. 26	2日早	2日早	7. 13	7. 30	8. 12	3日早	2日早	98	0
山梨	5. 14	5. 28	6. 18	1日早	1日遅	8. 1	8. 9	...	1日早	2日遅	77	1
長野	5. 12	5. 22	6. 3	並み	並み	7. 29	8. 5	8. 14	2日早	1日早	96	1
岐阜	5. 2	5. 28	6. 10	1日遅	1日遅	7. 20	49	0
静岡県	4. 28	5. 19	6. 11	1日早	1日遅	7. 19	8. 5	...	4日早	1日早	70	3
愛知県	4. 30	5. 23	6. 10	1日早	並み	7. 23	44	0
三重	4. 17	5. 1	5. 19	1日早	1日遅	7. 14	7. 23	8. 9	1日早	2日遅	97	0
滋賀	5. 1	5. 9	5. 28	1日早	並み	7. 23	7. 29	...	4日早	1日早	94	2
京都	5. 6	5. 21	6. 6	2日早	2日早	7. 22	8. 1	...	3日早	1日早	87	6
大阪	5. 17	6. 8	6. 20	並み	並み	7. 31	27	0
兵庫	5. 12	6. 3	6. 15	1日早	並み	7. 26	8. 9	...	4日早	3日早	65	3
奈良	5. 7	6. 8	6. 14	並み	並み	7. 31	30	0
和歌山	5. 2	6. 4	6. 17	並み	1日遅	7. 18	8. 7	...	1日早	1日遅	83	△ 1
鳥取	5. 5	5. 24	6. 5	2日早	1日早	7. 23	8. 2	...	5日早	3日早	92	6
島根	5. 2	5. 15	6. 5	1日遅	2日遅	7. 18	7. 27	...	6日早	1日早	94	4
岡山	5. 13	6. 7	6. 22	1日早	1日早	7. 29	42	1
広島	5. 4	5. 18	6. 5	並み	並み	7. 22	8. 5	...	3日早	3日早	75	4
山口	5. 12	6. 2	6. 23	2日遅	並み	7. 28	8. 7	...	3日早	1日早	65	1
徳島（早期栽培）	4. 6	4. 16	5. 2	2日早	並み	7. 6	7. 13	7. 25	3日早	並み	100	0
（普通栽培）	5. 2	5. 23	6. 12	並み	1日遅	7. 21	7. 30	...	1日早	並み	88	4
香川	4. 27	6. 15	6. 28	並み	1日遅	7. 20	41	0
愛媛	4. 23	6. 1	6. 21	1日早	1日早	7. 17	8. 12	...	2日早	1日遅	57	2
高知（早期栽培）	4. 3	4. 13	4. 22	1日遅	2日遅	6. 25	7. 1	7. 11	4日早	1日遅	100	0
（普通栽培）	5. 17	5. 27	6. 13	並み	2日遅	8. 11	28	1
福岡	5. 17	6. 17	6. 28	並み	1日遅	8. 1	35	4
佐賀	5. 5	6. 19	6. 28	1日早	並み	7. 19	28	8
長崎	4. 21	6. 16	7. 2	1日遅	3日遅	7. 15	14	△ 1
熊本	4. 23	6. 14	7. 2	1日早	3日早	7. 14	24	1
大分	5. 16	6. 13	6. 29	並み	並み	7. 29	20	1
宮崎（早期栽培）	3. 20	3. 26	4. 5	1日早	並み	6. 21	6. 28	7. 3	2日遅	7日遅	100	0
（普通栽培）	5. 29	6. 15	6. 26	1日早	1日遅	3	0
鹿児島（早期栽培）	3. 19	4. 4	4. 15	並み	並み	6. 16	6. 29	7. 15	2日遅	7日遅	100	0
（普通栽培）	6. 13	6. 22	6. 30	1日遅	2日遅	0	0
沖縄（第一期稲）	2. 18	3. 12	4. 8	7日遅	7日遅	5. 11	5. 25	6. 4	2日遅	2日遅	100	0

注：1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。
 2 出穂期の「始期」、「最盛期」及び「終期」の欄の「…」は、8月15日現在でそれぞれの期日に達していないことを示す。
 3 出穂済み面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

2 平成 29 年産水稻早場地帯の作柄概況（8 月 15 日現在）

区 分	平 年 比 較				
	作柄の良否	穂数の多少	1 穂当たり もみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
北 海 道	平年並み	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良
青 森	平年並み	平年並み	平年並み	やや多い	やや不良
岩 手	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良
宮 城	やや良	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良
秋 田	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
山 形	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
福 島	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
茨 城	平年並み	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
栃 木	平年並み	やや多い	やや少ない	やや多い	やや不良
千 葉	平年並み	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良
新 潟	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
富 山	平年並み	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良
石 川	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
福 井	平年並み	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
長 野	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
三 重	平年並み	やや多い	少 ない	やや少ない	やや良
滋 賀	平年並み	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
鳥 取	やや良	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み
島 根	やや良	多 い	平年並み	やや多い	やや不良

注： 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良・やや少ない」が98～95%、「不良・少ない」が94%以下に相当する。

3 平成 29 年産水稻遅場地帯の生育状況（8 月 15 日現在）

区 分	平 年 比 較		
	生育の良否	草丈の長短	茎数の多少
群 馬	やや良	長 い	平年並み
埼 玉	やや良	平年並み	やや多い
東 京	やや良	長 い	やや多い
神 奈 川	やや良	平年並み	多 い
山 梨	平年並み	平年並み	平年並み
岐 阜	平年並み	平年並み	やや多い
静 岡	やや良	やや長い	やや多い
愛 知	平年並み	やや短い	やや多い
京 都	やや良	平年並み	やや多い
大 阪	やや良	平年並み	やや多い
兵 庫	やや良	やや長い	やや多い
奈 良	やや良	平年並み	やや多い
和 歌 山	やや良	平年並み	やや多い
岡 山	やや良	やや長い	やや多い
広 島	やや良	平年並み	やや多い
山 口	やや良	やや長い	やや多い
徳 島 (普通栽培)	平年並み	やや短い	やや多い
香 川	平年並み	平年並み	平年並み
愛 媛	やや良	やや長い	やや多い
高 知 (普通栽培)	平年並み	平年並み	平年並み
福 岡	平年並み	やや長い	平年並み
佐 賀	やや良	平年並み	やや多い
長 崎	やや良	やや長い	やや多い
熊 本	平年並み	平年並み	平年並み
大 分	平年並み	やや長い	平年並み
宮 崎 (普通栽培)	平年並み	やや長い	平年並み
鹿 児 島 (普通栽培)	やや良	平年並み	やや多い

注： 生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況及び一部のほ場における計測可能な穂数、もみ数等の計測結果等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではない。

4 平成29年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（8月15日現在）

(1) 10a 当たり予想収量

区 分	10a 当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別			(参考)	
		10a 当たり 予想収量 ②	10a 当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③	作 付 面 積 (子実用、見込み) ⑤	予想収穫量 ⑥=①×⑤
	kg	kg	kg		ha	t
徳 島	482	476	459	104	4,450	21,400
高 知	499	495	477	104	6,500	32,400
宮 崎	494	486	470	103	6,510	32,200
鹿 児 島	472	465	434	107	4,460	21,100
沖 縄	354	350	363	96	537	1,900

注：1 ①10a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 (参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10a 当たり予想収量、③10a 当たり平年収量及び④作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（四国及び沖縄は1.75mm、九州は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

3 沖縄県は第一期稲である（(2)の統計表において同じ。）。

4 (参考)の⑤作付面積（子実用、見込み）は、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積（参考値）であり、今後変動する可能性がある。

(2) 作柄概況及び刈取済面積割合

区 分	平 年 比 較				刈取済面積割合	
	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否	当年値	対平年差
					%	ポイント
徳 島	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	16	6
高 知	多 い	やや少ない	多 い	やや不良	91	26
宮 崎	やや多い	やや少ない	やや多い	やや良	99	△ 1
鹿 児 島	やや多い	やや多い	多 い	やや良	85	△ 1
沖 縄	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	100	0

注：1 本表における平年比較の表示区分は、「多い・良」が対平年比106%以上、「やや多い・やや良」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや少ない・やや不良」が98～95%、「少ない・不良」が94%以下に相当する。

2 刈取済面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作柄概況調査として実施したものであり、水稻の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査は、全国の各都道府県を対象に、次表の区分に応じて実施している。

区 分	調査対象都道府県	備 考
早場 地帯	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、三重県、滋賀県、鳥取県、島根県	8月15日現在の出穂済面積割合が、平年ベースでおおむね8割以上を占める道県
遅場 地帯	早場地帯の道県以外の都府県	

注：沖縄県の第二期稲については、8月15日現在で田植前の地域があり、田植期等の判断ができないことから、本資料において調査結果を表記していない。

(2) なお、早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県における早期栽培並びに沖縄県の第一期稲については、西南暖地における早期栽培等として別に集計している。

3 調査対象筆数

作況標本筆：10,248筆 作況基準筆：576筆

4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

平成29年8月15日現在における水稻の生育・作柄概況を調査した。

6 調査・集計方法

職員又は統計調査員による作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査により行った。なお、職員又は統計調査員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

7 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を含む。
- (2) 「作柄の良否」とは、10a当たり予想収量が平年と比較して多いか少ないかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (3) 「生育の良否」とは、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況等を総合して稲体の生育が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (4) 「穂数の多少」とは、1m²当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で

表している。

- (5) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (6) 「全もみ数の多少」とは、1m²当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (7) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (8) (4)から(7)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した1m²当たり穂数等の平年値との比較である。
- (9) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産以降の作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

全国農業地域名	所属都道府県名	農家等使用目幅
北海道	北海道	1.85mm
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	1.85mm
北陸	新潟、富山、石川、福井	1.85mm
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野	1.80mm
東海	岐阜、静岡、愛知、三重	1.80mm
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	1.80mm
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1.80mm
四国	徳島、香川、愛媛、高知	1.75mm
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	1.80mm
沖縄	沖縄	1.75mm

- (10) 「10a当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

8 利用上の注意

- (1) 統計数値については、次の方法で四捨五入している。

原数		7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数(下から)		3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前(原数)	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後(統計数値)	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- (2) この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「平成29年産水稻の8月15日現在における作柄概況」(農林水産省)による旨を記載してください。

9 その他

本調査における作柄概況（8月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼肥料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y2 】

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞政策統括官

http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 普通作物統計班
電話：（代表）03-3502-8111 内線3682
（直通）03-3502-5687
FAX：03-5511-8771

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画管理官 広報普及班
電話：（代表）03-3502-8111 内線3589
（直通）03-6744-2037
FAX：03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)
<http://www.e-stat.go.jp/>